

# 読賣新聞

広告

企画・制作 (株)読売鹿兒島広告社

## エネルギーを自給自足して、快適で健康に暮らす家 “ハイブリッドeハウス” ～鹿兒島県「木のあふれる街づくり事業」屋久島『楽水舎』の概要と目的について～



『楽水舎』の外観



『楽水舎』の内部の様子

■森林環境税で建てた屋久島「楽水舎」の概要と目的についてお聞かせください。

**「楽水舎」の目的**

多くの離島を抱えるわが国、特に東京以西の高温多湿の地域においては、離島のような小規模地域でいかにエネルギーを効率的に使うか、いかに地元材を使うか、また現在の気密化の進んだ住宅をいかに多雨多湿に適応させるか等は、非常に大きなテーマです。

今回の屋久島「楽水舎」建設の計画は、大阪の建築設計事務所アーキアンドリフォーム代表の北田社氏が所有する屋久島の土地に高温多雨多湿な離島のエネルギー高効率建築の建築設計ノウハウを盛り込んで、北田氏と共に(社)セルフエナジーハウス研究会代表・上野勝氏が共同で、平成26年度森林環境税の補助金を利用して行ったものです。

単なるデータ収集のための実験棟ではなく、環境共生デザインや2020年の改正省エネ基準をしのぐ性能を取り入れ実際に居住できる環境を整え、短中期の滞在により、実際に使用するエネルギー量を測定することや室内環境を体験できるようにしている、是非ご利用いただきたいです。厳しい環境下でも常に快適で健康的な室内環境を多くの人に体験していただきます。

さらに、建築時におけるエネルギー削減と地産地消という考えから、構造躯体をはじめとする建材のほとんどを屋久島産材(屋久杉)ではなく、屋久島の人工林で育成された杉及び鹿兒島産産材を使い、耐候性・耐久性・経年変化などを調査することを目的のひとつです。

このプロジェクトで収集される各種ノウハウや実証データは広く公開し、設計者や施工者がエネルギー高

### 「楽水舎」の概要

■最後に、世界自然遺産で神秘的といわれる屋久島で建築された「楽水舎」は、これから来るべき2020年改正省エネ基準をクリアするのみならず、日本の住宅づくりにおいて考えなければならぬ必須条件としての湿度への適応なども考えられた(社)セルフエナジーハウス研究会としておすすめする建物です。

「身近にある安全でクリーンなエネルギーを取り入れて、自分で使うエネルギーは自分で作る。」をコンセプトにしたハイブリッドeハウスがベースになっています。住宅に求められる基本条件すなわち性能はかりではなく、機能やデザインが良いこと、そしてそのバランスが保たれている事をクリアしているのは勿論ですが、自然エネルギーを取り入れる事や無駄にしない事他にも、風の流れや日射を考慮したデザイン、そして室内空間を快適にするレイアウトを作り上げるために最適な機材、機器類などを総合的に研究し、時間をかけてバランスよく組み立てており、少ないエネルギーでも快適に暮らせる、燃費の良い家が「ハイブリッドeハウス」です。楽水舎もその必須条件になる断熱材には吸放湿性に優れたアップルゲートのセルロース断熱材を計画換気には床下にも湿気を溜めず熱交換のみならず湿度の交換まで行う「マーベックス」社の計画換気を又熱損失の激しい窓には「EXE」の高性能樹脂サッシを使用しています。

**湿度への適応も考慮**



一般社団法人  
セルフエナジーハウス研究会  
代表理事  
上野 勝氏に聞く



自然エネルギーを使った  
自給自足の家づくりを! ハイブリッドeハウス

**SOLAR HOUSE 21**  
株式会社 ソーラーハウス21

〒899-4341 鹿兒島市国分野口東6-11 MBC開発園分ビル4F  
TEL.0995-73-3023 FAX.0995-73-3024

